



弥富市長 服部彰文

年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えることとお慶び申し上げます。また、日ごろより市政全般にわたりまして、ひとかたならぬご理解とご協力をいただいておりますことに心から御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、やはり、災害に關することが目立ちました。九月の台風十八号の影響による北関東・東北地域の豪雨災害をはじめ、最大瞬間風速八十一・一メートルを観測した台風二十一号など「過去に体験したことが無い」「数十年に一度」などと形容される異常気象が相次いでおり、これからも発生してくるものとして、災害に対する対応力の強化が重要であります。

政治に關しては、六月に選挙権年齢を十八歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立し、若者の政治参加を期待するものであります。

また、アベノミクス「三本の矢」として経済面では景気の回復も緩やかに進んできており、新たに「新三本の矢」として希望と夢と安心を掲げさらに進めていくとしています。この「新三本の矢」も着実に成果が上がることに期待します。

さて、本年は弥富市の誕生からいよいよ十周年を迎えます。市民の皆様には、これまでの市政運営にご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。市制施行十周年を記念しまして式典や様々なイベントを開催してま

います。市民の皆様とともにこの十年を振り返り、弥富市になって良かったと感じていただき、そして次の十年に向け、更に皆様が安全で安心して暮らしていけるまちづくりをめざし、精一杯頑張っていきたいと考えております。

昨年二月、私は、市民の皆様のご信任を頂き、引き続き三期目の市政運営の重責を担わせていただくことになりました。

市長就任以来、「市民と行政の協働のまちづくり」「市民と情報を共有した公平で透明な市政の実現」「予算の節約と有効活用」を基本姿勢に掲げ、市民本位の行政運営に心がけて取り組んでまいりました。

今年から始まる新たな十年に向けて、先人から受け継いだこの豊かな地域をしっかりと守り育て次の世代へ着実に引き継ぎ、誰もが未来に夢を持つことができ、ずっとこのまちに住み続けたいと思っていただけるような弥富市を築いていくため、全力を尽くしてまいります。

結びに、本年の干支は「申」で、「山の賢者で、山神の使いといわれ、器用で臨機応変」ということであります。多様な社会変化にうまく対応し、これからも豊かな社会が実現していけることを信じるものであります。

市民の皆様にとりまして、この一年が素晴らしい年となりますことを御祈念申し上げ、新年のごあいさつと致します。

平成二十八年元旦



弥富市議会議長 佐藤 高清

初春を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた平成二十八年の新春を晴れやかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より市議会に對しまして、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

市議会は、平成二十五年九月に議会改革の一環として議員定数を二名減らして十六名とする条例改正を行い、本年二月に行われます市議会議員選挙から実施され、三月定例会から、正副議長はじめ委員会構成などが新たな体制となります。

私ども市議会は、市民の代表機関として、地域の実情に応じたまちづくり、行政への監視機能を十分に發揮し、今まで以上に、議員活動を積極的に展開していくことが求められていると感じております。

昨年は、開かれた議会を目指すため三月定例会から本会議及び常任委員会での審査の模様をインターネットで配信し、多くの方にご覧いただけるようにいたしました。

二元代表制の一翼を担う私たちは、市民の皆様

の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、議員一丸となって全力を尽くしてまいります。

本年におきましても、市民の皆様のご期待にお応えできるよう、議会改革をはじめとした諸問題に取り組むまいと考えており、市民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が市民の皆様方にとりまして、大いなる飛躍の年となりますことを心よりお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。

平成二十八年元旦